

## 黒毛和種子牛の牛アデノウイルス 4 型感染を伴う

*Candida albicans*, *Aspergillus* 属菌及び

## 接合菌による深在性真菌症

鈴田史子<sup>1)</sup> 寺山好美<sup>1)</sup> 浦川 了<sup>1)</sup> 熊谷飛鳥<sup>2)</sup> 木村久美子<sup>2)†</sup>

1) 長崎県中央家畜保健衛生所 (〒 854-0063 諫早市貝津町 3118)

2) 国研農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門 (〒 305-0856 つくば市観音台 3-1-5)



本文はこちら

(2021年6月7日受付・2021年11月29日受理・2022年1月15日公開)

## 要 約

黒毛和種子牛 1 頭が 4 日齢で発熱，呼吸器症状，神経症状を呈し，17 日齢で死亡した。剖検では腹膜や肝実質の多発性白色結節，前胃及び第四胃粘膜のび爛・潰瘍，脳脊髄液の混濁が認められた。脳を含む主要臓器から *Candida albicans* が分離され，形成されていた病変は同菌によることが免疫組織化学的に証明された。消化管，肝臓及び腹膜では *Aspergillus* 属菌，接合菌の重感染が確認された。また，全身の血管内皮細胞に核内封入体が認められ，電子顕微鏡観察及び DNA 解析で牛アデノウイルス (BAAdV) 4 型と同定された。これまで，牛における *C. albicans* による脳脊髄炎の報告はなく，国内における BAAdV 4 型感染の報告も非常に少ない。本症例の病態はこれらの病原体に加え，複数の真菌の重感染が関連して成り立っていると考えられた。

——キーワード：牛アデノウイルス 4 型，カンジダ性脳脊髄炎，深在性真菌症。

-----日獣会誌 75, e18～e23 (2022)